

来週の「売り物」記事はこれ



2014年12月12日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

開戦73年 終わらぬ「二つの祖国」の悲劇

戦争記憶に分断される日系米国人 14日(日)



日系アメリカ人2世のジョージ・タケイ氏(77)。ドラマ「スタートレック」でハリウッドスターの座をつかんだ彼はいま、あるミュージカルのニューヨーク公演を目指して奔走しています。タイトルは「忠誠」。第二次世界大戦中に日系米国人が押しやられた強制収容所を舞台にした物語です。戦時中、そこでは米国に忠誠を誓うか否か厳しく



問われました。忠誠を誓った人たちは過酷な欧州戦線へ出征し、帰還後は国家的なヒーローとしてたたえられた一方で、潔しとしなかった日系人は不穏分子として収容所内で迫害されました。タケイ氏の父親もその一人です。戦後になっても、日系人社会の間では白眼視され続けたといいます。日系人社会の和解のためにミュージカルを上演しようとするタケイ氏……。けれども「寝た子を起こすようなもの」と批判する日系人も少なくありません。知られざる「二つの祖国」の物語をお届けします。

日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待ください。

「仁義なき戦い」「トラック野郎」そして反原発と平和

菅原文太さんが伝えたかったものは

夕刊2面特集ワイド 17日(水)



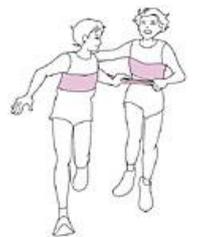
映画「仁義なき戦い」シリーズに主演した俳優の菅原文太さんが亡くなりました。「トラック野郎」シリーズなどと合わせ、日本映画を代表するトップスターとして活躍した菅原さん。東京電力福島第1原発事故後は「命よりカネ優先だ」と憤って脱原発を表明し、特定秘密保護法や集団的自衛権行使容認に反対して平和の大切さを訴えるなど、映画以外でも精力的に活動しました。菅原さんが残した言葉や親交のあった

人たちへの取材から、菅原さんが伝えたかったものを探ります。

第34回全日本実業団対抗女子駅伝競走大会開催

14日(日) 午後0時15分スタート

「第34回全日本実業団対抗女子駅伝競走大会(クイーンズ駅伝 in 宮城)」(日本実業団陸上競技連合主催、毎日新聞社など共催)が14日に開催されます。コースは宮城県松島町をスタートし、仙台市陸上競技場をゴールとする6区間42.195キロ。全国3地区の出場枠計22(東日本10、中日本3、西日本9)に加えて、2時間23分以内で走った中日本1、西日本の3チームも出場権を獲得し、26チームが出場します。昨年初優勝のデンソーは高島由香選手、同2位で今年の東日本大会を制したユニバーサルエンターテインメントは青山瑠衣選手ら実力者が登録。同4位のダイハツは今秋の仁川アジア大会マラソン銀メダルの木崎良子選手、新人・前田彩里選手らがエントリーしています。同3位の天満屋、西日本大会を制した九電工なども全国制覇を目指します。レースの様子はTBS系列で全国生放送の予定です。2016年リオデジャネイロ五輪を狙う実力者や、2020年東京五輪を目指す若手ランナーらのハイレベルなレースにご期待ください。



「TOKIO城島 出合いに感謝」 おんなのしんぶん面 14日(日)

おんなの
しんぶん


人気グループ「TOKIO」のリーダー・城島茂さんのコラム。今週のテーマは、この日投開票の衆院議員選挙です。若い頃は選挙に関心がなかったという城島さん。情報番組のメインパーソナリティーを務めている今の心情をつづっています。



「60歳からのおしゃれ」 くらしナビ面 13日(土)



加齢による体形の変化や衰えは、誰しも避けられないことですが、「似合う服がない」とおしゃれに消極的になっていませんか？ 今秋出版された、60歳以上限定のファッション写真集に登場した60代と70代の女性に、自分らしいおしゃれを楽しむ秘訣を聞きました。服には気持ちを前向きにする力もあるようです。

年末年始企画「正月ことはじめ」 くらしナビ面 16日(火)から4回

2014年も師走となり、もうまもなく新年を迎える時期になりました。年を運ぶ「年神様」をお迎えする準備「正月事始め」は、本来なら12月13日だそう。古来、この日から門松やお節料理の材料を集め始めたといわれています。お節料理や大掃除、年賀状など今どきの正月を迎えるための準備と心得をご紹介します。



第47回衆院選が14日に投開票されます。毎日新聞をはじめ、各種調査では「自民党堅調、民主党伸び悩み」といった情勢結果が出ていますが、選挙は投票箱のふたが閉じるまで分からないと言われます。

毎日新聞は予断を持たず、全国の通信網の取材に基づき、15日の朝刊で正確な選挙結果を伝えるとともに「どうしてこういう結果になったのか」「この結果を受けて何が起きるのか」などを多角的に報道していきます。また、15日夕刊以降も有権者の投票行動を詳細に分析して今の日本の民意を探っていくほか、有識者の座談会などを予定しています。

教育連載「さまよう入試Ⅱ 1点刻みを超えて」

19日朝刊から3回

今の小学高学年の児童が大学受験をする時から、入試が大きく変わります。大学入試センター試験を廃止して新テストを作り、これまでの1点刻みで合否を判定していた結果を段階別に判定。国公立大の2次試験は「論文、面接、集団討論」を軸にする内容です。実現すれば日本の入試制度の大改革になります。近く中央教育審議会がまとめる答申を前に、3回で緊急連載を実施。果たして改革はできるのか。昨秋に大好評だった「さまよう入試」の続編です。



連載企画「東京駅開業100周年」 夕刊社会面 18日(木)から



1914(大正3)年開業のJR東京駅が20日、100周年を迎えます。その魅力を描く連載企画をスタートします。赤れんがの駅舎は関東大震災で被災を免れたほどの堅牢さで有名ですが、実は現在の専門家が見ても驚くべき工夫も施されていました。その「技」とは？「雷おやじ」と呼ばれた初代駅長から現駅長の江藤尚志氏まで、24人の駅長が紡いできた首都の玄関口にかける想いは？古い写真も駆使し1世紀の歩みに迫ります。